

令和6年度 ゆいの杜小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

「豊かな関わりを生かして、よりよく生きる子供を育む」

豊かな人間関係づくりのできる学校という集団の中で、児童が自己肯定感を高めながら自分らしさを発揮できるようにするとともに、急速に変化する時代の中で心豊かでたくましく生きる児童を育成する。

（2）目指す子供像

学ぶことを喜ぶ子供 【知】

他と豊かにかかわる子供 【徳】

自分を大切にすること子供 【体】

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

（1）基本理念 「すべては児童のために」

（2）目指す学校像

① 児童が様々な人との関わりを通して、よりよく学べる学校

② 教職員がチームとなって、一人一人の児童を育む学校

（3）学校の合言葉 「笑顔いっぱい 友達いっぱい みんな大好き ゆいの杜小」

子供たちが様々な教育活動を通して豊かな人間関係を築き、学校への愛着と誇りをもつことができるような合言葉を設定する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進

（2）学校における働き方改革の推進

○（3）地域とともにある学校づくりの推進

【清原地域学校園教育ビジョン】

自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて主体的に取り組む児童生徒の育成 2nd stage
～ 人との豊かなかかわりを通して ～

4 教育課程編成の方針

（1）本校教育課程は、日本国憲法・教育基本法・学校教育法及び同施行規則、小学校学習指導要領、並びに県の方針や「第2次学校教育推進計画（うつのみやいきいき学校プラン）」・「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」・「清原学校園教育ビジョン」に基づき、創意ある教育課程を編成する。

（2）本校教育目標・経営方針や努力点・学校課題等を踏まえ、児童の実態・特性、学校の施設・設備、職員組織の実態等を十分考慮して、心豊かでたくましく生きる児童の育成を目指して編成する。

（3）新学習指導要領及び宇都宮市小中一貫教育の趣旨を生かし、確かな学力を身に付けるための適正な時数の確保に努める。また、新学習指導要領における「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を一人一人の児童が確実に身に付けられるようにすることを目指して編成する。

（4）各教科・道徳・総合的な学習の時間等、相互の関連を図った系統的・発展的な指導を心掛け、児童の自主的・実践的活動や体験的な活動を多く取り入れた特色ある教育活動が展開できるよう編成する。なお、「社会に開かれた教育課程」の観点から地域等の意見の反映にも努めたい。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営 ・ 「宇都宮モデル」(「はっきり」「じっくり」「すっきり」) を活用した授業の質的向上 ・ 教育活動の質を向上させるための校内業務の適正化と教職員の時間管理 ○・ 地域の教育資源等を有効に活用するための保護者や地域住民との連携強化 (2) 学習指導 ・ 豊かな関わりを生かしながら、学びを喜ぶ児童の育成 ～コミュニケーション力を育成するための指導の工夫～ (3) 児童生徒指導 ・ 人との関わり合いの中から、自己肯定感を高め、自己実現を目指す児童の育成 (4) 健康（保健安全・食育）・体力 ・ 自らの健康・体力の保持増進に関心をもち、生涯にわたって健康で安全な生活をしようとする児童の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答85%以上	①コミュニケーション力を育成するための指導の在り方を研究し、コミュニケーション力を伸ばす手立てを広げる。 ②児童が課題や目的に応じて情報手段を適切に活用し、必要な情報を収集・選択・表現できるよう指導する。 ③授業のねらいを明確にして児童に示すとともに、考える時間を確保したり授業形態を工夫したりして、児童が積極的に授業に取り組めるよう支援する。	B	【達成状況】 肯定的回答 児童88.0% 教職員95.9% 保護者88.1% いずれも数値指標を上回った。 ・前年度の研究を基に国語科の学習を中心として、コミュニケーション力を高める手立てを話し合いながら実践を進めた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上	①清掃活動や学校行事などに縦割り班活動を取り入れ、上級生と下級生が関わる場を積極的に設定する。 ②道徳科の授業と他教育活動との関連を図り、思いやりのある豊かな心情を育む。 ③豊かな感性を育めるように、文化的活動、自然体験、読書活動を推進する。	B	【達成状況】 肯定的回答 児童89.3% 教職員98.0% 保護者94.6% 地域92.9% いずれも数値指標を上回った。 ・運動会等の学校行事や縦割り班清掃、ゆい結タイムでの活動を機会に捉え、上級生と下級生の関わり場の場を設定できた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。
	A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答85%以上	①学習や学校行事、児童会活動等において、児童が主体的に活動する場を意図的に設定し、個人や集団で目標達成に向けて根気強く組めるよう支援する。 ②家庭や地域と連携し、児童一人一人のよさや小さな努力の積み重ねを認め励ます指導を推進する。 ③学年だよりやホームページ、スタンダードダイアリー等を活用し、児童が目標に向かって粘り強く取り組んでいる様子が家庭に伝わるようにする。	B	【達成状況】 肯定的回答 児童87.0% 教職員95.9% 保護者76.3% 児童と教職員は数値指標を上回ったが、保護者は下回った。 ・児童が主体的に活動できる学校行事等の中で、個人や集団で目標達成に向けて支援することができた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。 特に③については、児童の頑張りが多くの方に伝わるよう、今年度同様、学年だよりによりコーナーを設けたり、各学年から行事ごとにホームページを更新したりする。

1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上	①体力チェックの結果の分析と、それを生かした指導の充実を図り、児童間の教え合いや学び合いの場を設定することによって運動の機会を増やす。 ②給食だより、保健だより等を活用して健康に関して保護者への啓発を図るとともに「キラキラウィーク」「朝ごはん食べよう週間」を実施し、<u>児童の歯磨きと朝食に関する実態の把握と啓発を図る。</u> ③避難訓練や交通安全教室など、交通や災害に対する安全教育を強化し、「ゆいっ子の約束」を活用して日常生活の中の危険について学年に応じて丁寧に指導する。	B 【達成状況】 肯定的回答 児童 91.7% 教職員 93.9% 保護者 86.4% 地域 100% いずれも数値指標を上回った。 ・健康安全共に授業や学校行事を通して、意識化を図るとともに、学校生活の中で児童の実態を把握し、適宜指導できた。 ・「キラキラウィーク」の実施や月に一度の「姿勢の日」を通して、児童の姿勢に関して適宜指導できた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 85%以上	①学校行事や児童会活動、学級活動、クラブ活動等において、児童一人一人が自分の役割を果たせるようにする。 ②「ゆい結プロジェクト」を推進し、多様な人と協働して活動するよさが感じられるようにするとともにキャリアパスポートを活用して児童が自らの成長や変容を自己評価できるようにする。 ③道徳科や学級活動を通して、自他のよさが認められる場面を設定し、児童の自己肯定感や自己有用感を高める。	B 【達成状況】 肯定的回答 児童 87.7% 教職員 100% いずれも数値指標を上回った。 ・結プロカードやキャリアパスポートを活用し、児童が様々な人と協働して活動するよさを蓄積することができた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 85%以上	①ALTを効果的に活用し、英語でのコミュニケーションに親しむ機会の充実を図る。 ②ALTによる読み聞かせ等を実施し、授業以外にも英語に親しめるよう努める。 ③英語専科教員が中心となって、職員研修の機会を設け、教職員の資質向上を図る。	B 【達成状況】 肯定的回答 児童 84.5% 教職員 100% 教職員は数値指標を上回ったが、児童はわずかに下回った。 ・ALTと事前に打合せを行い、役割分担を明確にすることによって、ねらいに沿った授業を展開することができた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。 特に①については、今後も、ALTと担任が打ち合わせを行い、効果的に授業を展開できるように配慮しながら、英語でのコミュニケーションの機会を増やしていく。
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	①「宇都宮学」を中心に、継続して、宇都宮市全体や他地区との比較検討をすることで本地区への理解を深める。 ②清原・ゆいの杜の地区の協力を得て、<u>地域のよさを学習する機会を設ける。</u>	B 【達成状況】 肯定的回答 児童 86.8% 教職員 91.8% 保護者 79.2% 児童と教職員は数値指標を上回ったが、保護者はわずかに下回った。 ・生活科や社会科、総合的な学習の時間や道徳、外国語科を通して、宇都宮のよいところを探したり、他の地域と比べたりすることができた。 【次年度の方針】 ①②を継続して実施する。 特に②については、地域の方を招いた授業や地域を活用した学習を実施し、実施内容を学年だより等で周知していく。

2ー(2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機 器や図書等を学習に活 用している。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の 肯定的回答 85%以上	①デジタル・シティズンシップ教育の推 進を図り、自ら判断し、責任をもって 学ぶ力が身に付くよう指導していく。 ②各教科、領域において、一人1台のタ ブレットを効果的に活用した授業を 発達の段階に応じて継続的に実施す る。 ③プログラミング教育において、児童に パソコン活用の必要性を意識させる とともに論理的思考力を育成してい く。 ④担任と学校図書館司書が連携を深め ながら、各教科の調べ学習において、 学校図書館の積極的な活用を図る。	【達成状況】 肯定的回答 児 童 89.8% 教職員 100% 保護者 82.4% 児童と教職員は数値指標を上回ったが、 保護者は下回った。 ・教科を問わず、調べ学習や意見交換の 場等でタブレットを活用した授業を 行うことができた。 ・学校図書館司書と連携し、テーマに応 じた本を集めてもらい授業の展開に 活用した。 【次年度の方針】 ①②③④を継続して実施する。 特に②については、今後も引き続き有 効な場面では、積極的にデジタル機器を 使用していき、身に付けさせたい力の向 上を図る。
2ー(3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な 社会」について、関心を もっている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上	①総合的な学習の時間の学習を通し、身 近な自分の生活と持続可能な社会と の関わりを考えさせるなどして、福祉 や環境、異文化交流への関心を高め る。 ②生活科や理科、道徳の授業、委員会活 動を通して、環境保全に目を向けたり 動植物を思いやる心を育てたりする。 ③学校図書館司書と連携し、「持続可能 な社会」についての資料を把握して指 導に生かせるようにする。	【達成状況】 肯定的回答 児 童 91.3% 教職員 81.6% いずれも数値指標を上回った。 ・環境委員会が中心となってリサイクル 用紙の回収を行ったり、総合的な学習 の時間で自分たちができることを考 えたりすることで、環境への意識を高 めた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。 特に②については、適宜放送等で節水 や分別など身近に取り組める内容につ いて呼び掛けていく。
3ー(1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A 10 教職員は、特別な支 援を必要とする児童の 実態に応じて、適切な 支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	①校内支援委員会を通して教職員間の 情報共有を図るとともに、学級や学年 間の情報交換を密にして広く児童理 解に努め、組織的に児童の支援に当た る。 ②ケース会議や教育相談の充実を図り、 児童一人一人のニーズや悩みを把握 し、関係機関との連携を図りながら、 個に応じた支援を展開する。 ③児童の特性や理解度に応じて一人1 台のタブレット等の活用により、個 に応じた指導の充実を図る。	【達成状況】 肯定的回答 教職員 100% 数値指標を上回った。 ・校内支援委員会や月1回の情報交換会、 日常的な教員同士の情報交換で共通 理解を図り、適切にケース会議等を行 うことにより、一人一人のニーズに応 じた組織的な支援を行うことができ た。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。
3ー(2) いじめ・不 登校対策の 充実	A 11 教職員は、いじめが 許されない行為である ことを指導している。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域 の肯定的回答 85%以上	①毎月のいじめアンケート調査やQ-U、 教育相談を有効に活用し、早期発 見、早期対応に努めるとともに、いじ めは許されない行為であることを徹 底指導できるよう、学級活動や道徳科 の授業等、様々な機会を生かして継続 的な指導を行う。 ②いじめに関する情報交換を常時行い、 迅速に組織的に対応できるよう、全教 職員が報告・連絡・相談を確実に 行う。 ③「いじめゼロ強調月間」の活動や学年 に応じたスマートフォン・携帯電話の 使い方の指導等を各種たよりで保護 者や地域に発信し、連携して取り組め るようにしていく。 ④いじめ防止に対する学校での取り組 みについて、学年だよりやさくら連絡 網、ホームページ等で周知する。授業 参観等で保護者が来校する際には関 連する動画等を紹介する。	【達成状況】 肯定的回答 児 童 95.2% 教職員 100% 保護者 77.6% 地 域 100% 児童と教職員、地域は数値指標を上回っ たが、保護者は下回った。 ・いじめゼロ強調月間を通して児童への 啓発を行ったり、いじめに関するアン ケートや教育相談を基に事実の把握 をしたりすることができた。また、日 常的な指導の中で、いじめは許されな いことを継続して指導してきた。 ・いじめ防止に対する学校での取り組み について、保護者への周知が上手くで きていなかった。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施し、④について新 たに取り組む。

3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答85%以上	①児童一人一人が存在感をもち、自己実現の喜びを実感できる学級経営を実践する。 ②「ゆい結プロジェクト」を推進し、様々な人との関わりを重視し、良好な関係を築いていけるようにする。 ③ケース会議や教育相談の充実を図り、児童一人一人のニーズや悩みを把握し、関係機関との連携を密に行いながら、個に応じた支援をする。 ④新たに副担任制を取り入れるとともに、クラスで一緒に児童が遊ぶ「共遊」の時間を設定するなど、学級経営の充実を図る。	A 【達成状況】 肯定的回答 児童93.5% 教職員100% 保護者89.5% いずれも数値指標を上回った。 ・学年主任会や学年会等で常に情報交換を行い、共通理解の下、学級経営や児童支援を行ってきた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施し、④について新たに取り組む。
3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上	①外国人児童の実態に応じた指導や多様な教育的ニーズに対応するために、日本語指導教師や関係機関との連携を図り、全職員共通理解のもと個に応じた支援を行う。 ②年2回の教育相談の実施や「なんでも相談ポスト」の設置により、児童が不安や悩みを打ち明けられるようにするとともに、援助を必要としている児童には、組織的に対応できるようにする。 ③HPや各種たよりを通して、学校の取組を保護者や地域に情報発信し、理解と協力を求める。	B 【達成状況】 肯定的回答 児童93.1% 教職員100% 保護者86.7% 地域100% いずれも数値指標を上回った。 ・教育相談やアンケートにより児童の悩みを把握するとともに校内支援委員会等で情報交換を行い、同じ認識の下、組織的に支援を必要とする児童に関わることができた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。
3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化			
4-(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答85%以上	①校内で授業の進め方、課題の明確な提示、板書の仕方等の共通理解と共通実践に基づき、日々の授業の充実を図る。 ②朝の「学習タイム」を活用し、学年で計画を立てて、課題の質・量・手立て等を工夫しながら基礎学力を確実に定着させる。 ③校内でのOJTによる研修の実施や教科担任制の推進により、専門的な見地から授業の質を高める。	B 【達成状況】 肯定的回答 児童95.0% 教職員100% 保護者83.3% 児童と教職員は数値指標を上回ったが、保護者は下回った。 ・授業の進め方や板書の仕方については、共通理解や共通実践が進んでいる。 ・OJTによる研修や教科担任制の効果的な実施により、学力向上を図ることができた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。 特に③については、高学年以外の学年でも教科担任制を行い、専門的に教材研究を実施して、授業の質の向上を目指していく。
4-(2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答90%以上	①行事や授業の準備等、学年や分掌内の役割分担を的確に行い、連携を密にして教育活動を行う。 ②かがやきルーム指導員、学校図書館司書、日本語指導教師、ICT支援員、SC、サテライト担当教員、ALT等と積極的に情報交換を行い、教育活動の質的向上を図る。 ③校務分掌や学習指導、児童指導等において、OJTを実施していく。	B 【達成状況】 肯定的回答 教職員100% 数値指標を上回った。 ・個々の役割を行うだけでなく、校務分掌等の垣根を越えて、相互に協力して業務に当たることができた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。

4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	①「働き方改革プロジェクト」の検討を踏まえ、取組を着実に実施し、業務の効率化を図る。 ②勤務時間を意識し、優先順位を付けて業務にあたる等、個々の教職員の取組を継続する。 ③リフレッシュデーを毎月設定し、着実に実行する。	B 【達成状況】 肯定的回答 教職員93.9% 数値指標を上回った。 ・「働き方改革プロジェクト」の検討を踏まえ、業務の効率化を図ることができた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。
5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上	① <u>地域学校園としての地域の教育力を生かした活動が実施できるよう努めるとともに、あいさつ運動や宮っ子チャレンジなど、中学生と児童が直接関わる活動においては、地域学校園としての意識をもって参加できるようにする。</u> ② <u>児童生徒指導強化連絡会、6年児童の進学先中学校訪問を通して、小中学校の情報交換を密に行うことで、6年児童の中学校進学をスムーズに行う。</u> ③ <u>地域学校園において司書教諭など一人配置教職員による連携を推進し、学校運営の充実を図る。</u>	B 【達成状況】 肯定的回答 児童81.1% 教職員93.9% 保護者73.6% 地域100% 教職員と地域は数値指標を上回ったが、児童と保護者は下回った。 ・あいさつ運動や乗り入れ授業、宮っ子チャレンジなど、中学生と児童が直接関わる活動を行うことができた。 ・児童生徒指導強化連絡会等において中学校や各小学校との情報交換を行い、児童生徒に関する共通理解や学校園としての課題の把握に努めた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。 特に①については、今年度同様、取組の趣旨や様子について、学校だよりやホームページを通して発信することで児童や保護者への周知を図っていく。
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上	①「頑張る学校プロジェクト事業」を効果的に実施するとともに、地域人材や企業等の出前授業を活用したり、地域の幼稚園、保育園との交流を行ったりすることで、専門的、体験的な学習活動が推進できるようにするとともに、実践の様子について周知していく。 ② <u>地域協議会やPTA等と連携し、各ボランティアの協力を効果的に得ながら教育活動の充実や児童の安全確保、健全育成を図る。</u> ③「うつのみや学校マネジメントシステム」の活用や地域協議会の協力を得て、教育の成果を検証し、教育活動の充実を図っていく。	B 【達成状況】 肯定的回答 児童92.1% 教職員100% 保護者86.4% 地域100% いずれも数値指標を上回った。 ・地域コーディネーターやPTA役員を通して、地域人材を活用し、体験的な学習活動の充実が図れた。 ・地域や保護者と連携した登下校の見守り等を継続して実施し、児童の安全を確保できた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。 特に②では、保護者の協力がさらに得られるように、年間予定やボランティア募集の情報を計画的に発信していく。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上	①月1回の安全点検を着実に実施し、危険箇所を発見した場合は速やかに修繕する。 ②学校の行事を実施する際には、来校された方々の安全にも配慮するなど適切な環境づくりに努める。 ③各種委員会と連携して、遊具の使い方の決まりや使用学年の優先順位について考えたり、ケガマップを作成したりするなど、児童が自ら学校生活の安全について考えられるようにする。	B 【達成状況】 肯定的回答 教職員100% 保護者93.9% 地域100% いずれも数値指標を大きく上回った。 ・学校業務による点検や毎月の安全点検を実施し、危険箇所の早期発見や事故の未然防止に努めた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。

6- (2) 学校のデジ タル化推進	A20 コンピュータなどの デジタル機器やネット ワークの点から、授業 (授業準備も含む)を 行うための準備ができ ている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	①パソコンやデジタル教材等、ICT機 器の整備に努めるとともに、授業研究 会を通し、教職員の指導力向上を図 る。 ②校務の効率化、情報の共有化に向け てシステムやツールを積極的に活用す る。 ③学校図書館の学習・情報センターとし ての機能の充実が図れるように、全職 員による幅広い資料選択や授業に対 応できる蔵書整備を行う。	B 【達成状況】 肯定的回答 教職員98.0% 数値指標を大きく上回った。 ・ICT支援員の協力を得て、教材の作 成や各種機能の操作などの自己研鑽 に努め、指導力の向上を図った。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。
小・中学校、地域 学校共通、本校 の特色・ 課題等	B1 児童は、時と場に応 じたあいさつをしてい る。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域 の肯定的回答85%以上	①全職員が共通理解のもと、常時指導を 強化するとともに、児童会主体の「あ いさつ運動強化週間」を実施する。 ②清原地域学校園、地域協議会、PTA と連携・協力してあいさつ運動を展開 し、保護者や地域に運動の様子をHP 等で発信して、学校内・外でのあいさ つの習慣化を図る。 ③教職員が率先してあいさつし、児童の あいさつへの意識を高める。 ④友達同士でのあいさつや、地域の方へ のあいさつ等、学校内外に限らず自然 なあいさつができるように、指導す る。(あいさつの習熟を図る。)	A 【達成状況】 肯定的回答 児童90.1% 教職員89.8% 保護者81.0% 地域91.7% 児童と教職員、地域は数値指標を上回っ たが、保護者は下回った。 ・生活委員会によるあいさつ運動を実施 するとともにあいさつに関する生活 目標を設定することで、意識づけを図 ることができた。例年にも増して意欲 的に取り組めた。 ・児童の校内でのあいさつについてはよ い傾向が見られる。ただし、校外での あいさつについては、今後も意識付け が必要である。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施し、新たに④を実 施する。家庭や地域と連携・協力しなが らあいさつの向上が図れるようにする。
	B2 児童は、きまりやマ ナーを守って、生活を している。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地 域の肯定的回答85%以上	①「ゆいっこの約束」を活用し、望まし い行動習慣の形成を促すとともに、よ くできたことについては積極的に称 賛し、児童の意識を高める。 ②学校教育目標との関連を図って週の 生活目標を設定し、児童の実態や時期 に応じた基本的な生活習慣(重点目 標)の徹底を図るとともに、取り組み の様子を伝えることで、保護者や地域 の協力を得る。 ③廊下の歩行の仕方や名札を身に着け ること、交通ルールを守ること等の基 本的生活習慣について、全職員の共通 理解のもと、日常的に指導する。	B 【達成状況】 肯定的回答 児童92.8% 教職員91.8% 保護者92.2% 地域100% いずれも数値指標を大きく上回った。 ・「ゆいっこの約束」の家庭への配付によ り、望ましい生活習慣の形成を促した り児童を称賛したりすることができ た。 ・きまりやマナーに関する生活目標を設 定することで、意識向上を促した。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。 「ゆいっこの約束」は、児童の現状に 合わせて内容を検討していく。
	B3 学校は、児童が人と 関わり、豊かな人間関係 づくりのできる教育活動 を推進している。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域 の肯定的回答85%以上	①「ゆい結プロジェクト」を推進し、児 童一人一人が人との関わりを意識し、 めあてをもち、充実感や達成感を味わ える取組を積極的に行う。 ②縦割り班活動や異学年交流の充実を 図り、互いを認め、互いを大切にする 心を育てる。	B 【達成状況】 肯定的回答 児童95.8% 教職員100% 保護者91.5% 地域100% いずれも数値指標を大きく上回った。 ・「ゆい結プロジェクト」を推進し、めあ てをもって人と関わったことにより、互 いを尊重する気持ちをもつことができ た。 ・「すてきなゆい結さん」の取り組みを通 して、相手を意識した関わり合い方がで きるようになってきた。 【次年度の方針】 ①②を継続して実施する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本校は開校４年目となり、学校教育目標の具現化に向け「笑顔いっぱい 友だちいっぱい みんな大好きゆいの杜小」を合言葉に教育活動の充実を図ってきた。今年度は保護者・地域住民において、肯定的回答の向上した項目が増加した。

学校マネジメント全体アンケートの結果において、児童・保護者・地域・教職員とも９０％以上の肯定的回答となっているのは、Ａ１９「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」、Ｂ２「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」、Ｂ３「学校は、児童が人と関わり、豊かな人間関係づくりのできる教育活動を推進している。」の３項目である。本校の児童は、安全で整った環境の下、きまりやマナーを守って生活している様子が伺える。特にＢ３については「ゆい結プロジェクト」として、子どもたちに人との関わりについてめあてをもたせ、縦割り班活動や異学年交流の充実を図る取組を積極的に実施してきた成果と思われる。

Ａ１８「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」、Ａ７「児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。」については肯定的回答が全体的に向上しており、地域や地元企業、保護者の方との連携・協力のおかげで、児童の学習や生活を充実させることができたと考えられる。

また、昨年度の課題であったＢ１「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。」については、肯定的回答を向上させることができた。今年度は、地域協議会の予算でのぼりを作製したり、あいさつ週間を設定したりするなど、積極的に校内や小中合同でのあいさつ運動を実施することで、児童のあいさつが響く学校になってきたと考えられる。

一方で課題となる項目としては、Ａ３「児童生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」について、保護者の肯定的回答の割合が昨年度に続き８割を下回る結果となった。学校では、学習や学校行事などで児童に目標を持たせ根気よく取り組むよう支援したり、一人一人のよさや小さな努力の積み重ねを認め励ます指導を行ったりしているところであるが、次年度も様々な媒体を通して児童のよさや頑張りを地域や家庭に広く知らせていく必要がある。

また、Ａ１「児童生徒は、他者と協力したり必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」、Ａ１４「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」については、昨年度を下回る結果となった。校内では、板書の見せ合い週間を設定し、板書の仕方や授業の進め方等を教員間で共通理解を図っているところではあるが、次年度はさらに教科担任制を積極的に実施し、学習指導に関する研究や研修を進めていきたい。

また、Ａ１２「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。」、Ａ１３「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」については、数値は高いものの昨年度を下回る結果となった。次年度は新たに副担任制を取り入れ、学級経営に力を入れたり、クラスの児童と一緒に遊ぶ「共遊」の時間を設定したりするなど、温かな学級づくりや不登校を生まない学校づくりに取り組んでいきたい。

７ 学校関係者評価

- ・縦割り班で掃除をしたり、ゆい結タイムで他学年と関わったりするのは、とてもいいと思う。
- ・先生が宿題にコメントをくれたり連絡帳を見てくれたりするのは嬉しい。児童がポジティブになり、学校活動へのやる気につながっている。
- ・元気な挨拶のできる子が少ないと感じる。社会に出て挨拶は大切なので、学校でもしっかり取り組んでほしい。
- ・保護者が見に行ける行事等が少ないので、参観できる機会を増やしてほしい。
- ・家庭学習は、学年に応じた量や内容を考えてほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校での自己評価や保護者、児童、地域の皆様から寄せられた貴重なご意見を真摯に受け止め、次年度の方策について具体的に検討していきたい。

【学校運営】

- ・人との関わりを大切に「ゆい結プロジェクト」を通して、コミュニケーション力を高めるとともに良好な人間関係づくりに努め、児童一人一人が自己実現の喜びを実感できるようにしていく。
- ・児童が主体的に活動できる場を意図的・計画的に設定し取組を工夫していくとともに、個に応じた支援を充実させることで児童の自己肯定感や自己有用感を高めていく。
- ・各種便りや学校ホームページ、授業参観等を通して積極的に情報を発信し、学校の取組を理解していただくとともに、家庭や地域と連携を図り、協力や支援を得られるように努めていく。
- ・オープンスクール期間を設けたり、保護者が参加可能な行事を増やしたりするなど、児童や学校の様子を保護者や地域の方が参観できる機会を増やし、学校運営や教育活動への理解の向上を図る。

【学習指導】

- 家庭学習の充実・習慣化を図るため、「家庭学習ふり返し週間」を年2回設け保護者に協力を求める。
- ・校内研修を通して学習に関する重点目標の共通理解を図り、授業の実践・公開をするとともに自己研修に積極的に取り組み、教職員としての資質・能力や指導力の向上に努めていく。
- ・教科担任制をさらに推進し、専門的に教材研究を実施したり発達段階に応じて指導したりするなど、授業の質の向上を目指していく。

【児童指導】

- 進んであいさつができるよう、児童の主体的な取組を積極的に支援し、あいさつ運動を活性化していく。また、家庭や地域にも学校の取組を伝え、連携してあいさつの指導ができるよう協力を求める。
- ・いじめの早期発見・早期対応ができるように2か月に1回いじめアンケートを実施する。いじめ防止に向けた児童の主体的な活動を支援するとともに、友達とよい関係を築く力を身に付けさせる。
- ・児童に関する情報交換の機会を十分確保し、支援を必要とする児童への対応を組織的に推進していけるようにする。
- ・新たに副担任制を取り入れ、学級経営に力を入れたり、クラスで一緒に児童が遊ぶ「共遊」の時間を設定したりするなど、温かな学級づくりや不登校を生まない学校づくりに取り組んでいく。

【健康（体力・保健・食育・安全）】

- ・「元気っ子健康体力チェック」の結果を基に、教科体育において十分な運動量を確保するとともに指導法を工夫し、運動への関心を高め、体力の向上を図る。
- 水泳、鉄棒、縄跳びのがんばりカードの活用や「キラキラウィーク」での歯磨き・姿勢指導等、地域学校園共通の取組を継続していく。
- ・「自らの健康」について考えさせ、健康的な生活を営むために、体力の維持向上及び食育を関連させた健康指導の充実を図る。